

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2022年10月18日

## 特定非営利活動法人響愛学園

児童発達支援や放課後等デイサービス、就労継続支援事業所を手がける響愛学園。芸術分野で障がい者の育成を目指すなど、ハンデがある子どもたちの成長や活躍の場を広げようと奮闘する理事長の児島真里子氏に話を聞いた。

### Company Data

社名：特定非営利活動法人響愛学園

代表者：児島 真里子

住所：一宮市時之島妙光寺6の1

電話：0586-64-8491

URL：<https://kyoai-gakuen.com>



### 障がい者の可能性と音楽の力に感動

私は音楽大学卒業後、養護学校（現在の特別支援学校）の音楽講師になり、重度の障がいを持つ子どもたちに音楽を教えていました。子どもたちの障がいが最重度ということで、中には、鼻にカテーテルを入れ寝たきりの状態で授業を受けたり、酸素ボンベをつけながら、ベッドに寝たきりであったり、ほぼ全員の子が言葉が出ずコミュニケーションもままならない状態でした。

それでも音楽の授業の際、私が鈴を鳴らして歌うと、ほとんど反応がなかった子どもの指が動いたり、時々ニコッと笑ったり、ちゃんと反応してくれることに感動し、「音楽には人を動かす力がある」と痛感いたしました。



## 肘だけでショパン、子どもたちの持つ才能に驚嘆

結婚し出産を機に退職しましたが、2008年に「日本障害者ピアノ指導者研究会」というピアノ演奏を啓発する団体と出会いました。毎週土日には、ほぼボランティアでどこかのコンサートのお手伝いをし、大変勉強させていただきました。

コンサートでは、肘だけで鍵盤をたたいてショパンやベートーヴェンを弾く子どもの姿や、目が見えなくともすばらしい演奏をする姿に、ハンデがあってもここまでできるのか、と驚きました。その後、団体の理事に就任し、ニューヨークやバンクーバーなど海外の演奏会「国際障害者ピアノフェスティバル」にも同行しました。

そこでも彼ら彼女らの才能に圧倒され、障がいを持つ子らの可能性の追求をもっとしたいという思いで、響愛学園設立に至りました。

## 音楽教室に続きアート教室も開講

2010年10月に特定非営利活動法人響愛学園を立ち上げ、翌年5月に一宮市の借家で障がいを持つ子ども向けにスタイルとしては、「音楽教室」としての福祉事業を開設いたしました。講師はすべて音大卒ですが障がいについてはあまり知識がなかったため、午前中に講師の勉強会を行い、午後に学校帰りの子どもを教えました。

様々な障がいを持つ3歳から18歳の子どもたちを受け入れ、その中の7割ほどの子どもが自閉症です。子どもたちの中には、突然暴れたり気分が高揚したり、レッスンが始まっても何もしない子もいる中、講師は子どもが落ち着くまで待っていたり、関心を惹かせるためにピアノを弾いたり、歌ったりと、子どもたちとのコミュニケーションのきっかけをつくります。強制することには効果がなく、必要なのは忍耐です。子どもは一人ずつ特徴が異なり、柔軟な対応が求められます。そうして、徐々に子どもたちとコミュニケーションを深めて、信頼関係をつくっていきます。

開校してすぐに絵画の講師が見つかり、2013年にはアート教室も開講しました。手先を使うことで、「子どもが細かい作業ができるようになり、就職にも役立てたい」という狙いで始まりました。手先が器用な子や感性が豊かな子が多く、美術大学の卒業生が「こんな豊かな色彩は出せない」と、その才能に驚くほどです。また、専門的にアートを教える中で、毎年全国規模で行われている絵画展で優秀な成績を収めることが出来ていることも子どもたちのやる気を掻き立てます。2021年には障がいのある子ども絵画コンクール「キラキラとアートコンクール」で全国550作品から選ばれた優秀賞50作品のうち、9作品が響愛学園の子の作品でした。

私たちが掲げる「芸術的」「療育的」「教育的」の3本柱に沿って、子どもたちの可能性を発掘し、芸術を通じ豊かな感性を育て、社会の一員として社会参加ができるサポートをしていくことがまだまだ社会的弱者と言われる彼らの尊厳を守っていくことだと考えています。

設立8年経ったところで、子どもたちの豊かな芸術を地域の方々とも分かち合いたいということで、「響愛芸術の森」を設立いたしました。中心に約100人収容のホールを作り、今では多くの方にご利用いただきながら、芸術の発信をしております。

2023年夏には当園前に約200平方メートルのアートセンターを開設する計画をしています。センターにはギャラリーを設け、子どもたちの作品を多くの人に知ってもらえる空間にしようと思っています。

#### 広がる取り組み、卒業生のその後もサポート

障がい者の活躍の場をもっと広げようと、当園が創立8周年を迎えた2018年12月に「パラ・アーティスト・マネージメント協会」を立ち上げました。障がいのあるアーティストに登録してもらい、コンサートやアート展を企画・運営しています。2022年9月には、名古屋市中川文化小劇場でコンサートを企画し、視覚に障がいのある方たちがピアノ、トロンボーン、ホルンを演奏し、盲導犬の啓発事業も発信させていただきました。

また当園では、放課後等デイサービス以外にも就労継続支援B型事業所「ハミング」や、喫茶店「織り cafe ハミング」も運営しています。ハミングでは芸術表現活動を仕事として手織り、アート制作に取り組んでいます。織り cafe ハミングでは、教室で描いた作品を店内に展示しています。



障がい者サポートに関わるようになってから、才能豊かな子どもたちと出会い、何度も衝撃を受けました。自分が想像できなかった世界、無限の潜在能力を秘めた人たち、ハンデを乗り越え活躍する彼らとの出会いは、私にとって「未知との遭遇」です。彼らとの出会いで今の人生がある私にとって、「未知との遭遇」は大切な宝物と言えます。

今後も障がい者の潜在能力を引き出し、活躍の場を提供することで、社会的に弱い立場になりがちな子どもたちの存在感を高めていきたいと思えます。